

**ITI Scholar NEWS**  
**vol.6 (2022, Nov.)**  
**ITI Section Japan**



## 山本 麻衣子先生

### University of Belgrade (Belgrade, Serbia)

寒い日と暑い日を繰り返しながら、日ごと気温が下がり、カラフルなワンピースがレザージャケットやダウンジャケットに代わり、変わらずおしゃれなセルビア人達が、カフェでのんびりしている日々が続いています。

お陰様で1年間の ITI スカラーシッププログラムを無事に終えることが出来ました。

異国の地でインプラント治療を多く経験させて頂けたことは大きな経験と自信となりました。ベオグラード大学では多くの症例を ITI スカラー生に提供し、その力量に応じて、様々なドクターが指導やアシストをしてくれる環境が整っています。実際私も単純症例から多数歯欠損、IOD やプロアーチなど多くの症例を執刀医として経験させて頂きました。そこで感じた日本人とセルビア人の骨や粘膜、治癒の違いなどは今後の研究や臨床に生かせるものとなりました。

ベオグラード大学は今年6月にインプラントセンターが補綴科の隣に完成し、更なる飛躍を遂げようとしています。ライブオペ可能なセミナー室や医科用CT、CBCT、再生医療を可能とする研究施設、コンピューターガイドオペや最新のデジタル治療が行える診療室、学生へのデジタル教育の場を数多く備え、歯科医師、技工士、放射線技師、衛生士、看護師が1つのセンターとして動けることは“チーム医療”というインプラント治療の原点回帰であり、大きな施設では真の意味でのチーム医療が難しくなっているため、素晴らしい取り組みと言えるでしょう。

10月上旬に行われた ITI エデュケーションウィークではこの施設を使用してのセミナーが行われ、多岐にわたる興味深い講義は勿論のこと、様々な種類のライブオペや補綴治療、実際の埋入セミナーからデジタル印象に至るまでのハンズオンが行われました。一緒に治療計画を立案し、その手法で手術を見学をしたり、実際に手術を受けた患者と質疑応答したりなど他では得られない濃密な時間となりました。

知識や技術は勿論のこと、異国の地で、素晴らしく親切で明るい同僚や先生方に出会えたことは私にとって何よりの財産となりました。普通に食事をしていても最後にはなぜか皆で踊ることになる飲み会も素敵な思い出です。今後、ITI スカラーシップで得られたことを糧に、皆様に少しでも還元できますよう努力して参りたいと思います。

最後に改めまして、このような素晴らしい機会を与えてくださった ITI section Japan 関係者各位の皆様には深く御礼を申し上げますと共に、ご活躍とご発展を、心よりお祈り申し上げます。



口腔外科の同僚と(中央が筆者)



ITI Education Week Belgrade を終えて(左から 6 番目が筆者)

## 井汲 玲雄先生

### CUMD, University of Geneva (Geneva, Switzerland)

心地よい秋晴れの陽気が続く今日このごろ、お健やかに過ごしのことと存じます。

ITI スカラーとして 2021 年夏よりジュネーブ大学に留学しておりました井汲玲雄と申します。ついには ITI スカラーとしてのプログラムを修了しました。

第三回目となる今回が最後の投稿となりますので、ITI スカラーとして過ごしたこの一年を振り返りながら、総括の回としたいと思います。

ジュネーブ大学では臨床と研究に従事しておりました。クラウンブリッジに関する二つのシステムティックレビューとインプラント補綴装置に関する基礎研究に携わりました。基礎研究に関しては最後まで終わらせることができなかったため同僚に引き継ぐ形となりましたが、研究の組み立て方や計測方法など様々なことを学ぶことができました。

臨床では主にインプラント手術、補綴治療を行って参りました。ジュネーブ大学はデジタル技術が盛んで、初診から治療終了に至るまでの各段階において口腔内スキャナーを活用する機会が非常に多くありました。シリコンやアルジネートといった従来の印象採得はこの 1 年間で数回しか行いませんでした。また、スイスでは全顎的な治療介入が必要な症例に関しては、一貫した資料採得が必要でした。というのもスイスの学会では、ほぼ全ての全顎ケースをレポートとしてまとめることが一般的であるためです。

最初の半年は研究、臨床共に特に大変だったため、セミナーや学会に参加する余裕がありませんでしたが、留学生活にも慣れてきた後半になってからは様々な学会やセミナーに参加し、多くの国外の先生方と知り合うことができました。9 月末にジュネーブで開催された EAO では、大学勤務時代の同僚や先輩方がはるばる日本からいらっしや、ジュネーブにて再会することができました。目標の一つとしていた認定医試験も無事合格することができて最高のかたちで留学生生活を締め括ることができました。そしてこの一年お世話になったジュネーブ大学の Prof.Sailer や医局の同僚たちには温かく迎えていただき、心から感謝しています。

この一年でスイスはもちろん、学会等で訪れた諸外国の歯科医療や教育システム、保険制度などを見てきました。日本と比較した時に、それぞれに一長一短がありどちらが優れているというのも難しいのですが、日本の歯科医療は、特に治療の丁寧さやち密さに関して、世界に引けを取らないレベルだと思います。にもかかわらず、世界に向けたアピールが不十分だということも感じました。そのため、今後は日本の歯科医療を盛り上げ、日本の優れた部分をしっかりと世界に向けて発信していきたいと思っています。

ITI スカラーは海外と日本の架け橋として、世界に向けて広く発信していける存在でもあります。ITI スカラーに興味のある次世代の先生方にはぜひそうした部分でもご活躍いただきたいと願っています。

最後になりますが、このような貴重な機会を頂きました ITI section Japan 関係者各位の皆様にご心より感謝申し上げます。また、これからの ITI スカラーの先生方のご活躍や ITI Section Japan の発展を心よりお祈り申し上げます。



ITI Scholarship program 終了後の Certificate 授与  
( 右から 2 番目: Prof. Irena Sailer 左:筆者 )



2022 年 9 月 EAO in Geneva  
( 中央:塩田真先生 , 一番左:筆者 )

ありがとうございました。

